

4-1 Dimethylnitrosamine 投与によるSD雄ラット腎腫瘍発生に対する食用藍藻（髮菜 *Nostoc flagelliforme*）の影響

○竹中裕行¹、山本直樹²、仙波英雄³、日比野勤²

1 (MAC総合研究所)、2 (藤田保健衛生大学短期大学病理)、3 (名古屋明德短期大学病理)

【目的】食用藍藻（髮菜）は、中国では古くから不老長寿の食べ物として珍重されてきた。また、近年では髮菜の抗ウイルス活性や免疫能増強作用などが報告されている。

演者らは、SD雄ラットにおけるDMN大腸腫瘍の発生に対して、髮菜が抑制的に作用することを明らかにした。

今回、Dimethylnitrosamine (DMN) 投与によるSD雄ラット腎腫瘍発生に対する髮菜の影響について検索した。

【方法】6週令のSD雄ラット80匹を用い、4群を作成した。第1群(20匹)は生理食塩水0.5mlに40mg/kgの割合に溶解したDMNを1回胃内投与した。DMN投与1週間後から髮菜をオリエンタル基礎飼料MFに1%の割合に混じ、自由に経口摂取させた。第2群(20匹)はDMNのみ投与した。第3群(20匹)は生理食塩水投与と1% 髮菜含有飼料のみ投与した。第4群(20匹)は生理食塩水のみ投与し、対照群とした。

実験は40週で終了し、エーテル麻酔下に採血後、剖検した。常法に従って病理組織標本を作製し、腎の腫瘍性病変について病理組織学的に観察した。併せて、血液化学的検査も行った。

【結果】腎細胞癌の発生は、第1群および第2群ともに100%であった。しかし、腎腫瘍の長径が5mm以上のものは、第1群では15%、第2群では40%であった。第3群および第4群では、腎細胞癌の発生は認められなかった。

血液化学的検査結果は、各群間に、有意な差は認められなかった。

【結論】以上の結果から、髮菜はSD雄ラットDMN腎腫瘍の増殖を抑制することが明らかとなった。